

## 子どもの死とグリーフケアについて考える 交流講座

グリーフケアを遺族ケアと考える医療従事者が少なくありませんが、家族の多くは、あくまでそれはグリーフケアの一部と考えます。そこで、「当事者にとってのグリーフケア」とは何か？どの段階で、何を、どのように行うことが望まれているのか？そんな検討を、テーマを変化させながら隔月で行っています。



### 第12回 脳腫瘍発症から「在宅」までの道のり

**内容** 頭痛とおう吐に子どもは苦しみ、ようやく明らかになった病名は脳腫瘍グリオーマでした。入院当日に意識不明となり、18時間かけて手術は行われたものの植物状態に。すべてがあまりに突然でした。混乱する家族への病院の医師・看護師の関わり。その後の、MSW・在宅医・訪問看護師・PT・STからのさまざまな支援を振り返ります。そして、家族が感じていた子どもへの告知のあり方、在宅療養を勧める際の言葉の行き違い、呼吸器装着への葛藤、自宅での看取りを決意した背景、病気の進行に伴う家族の変化などを詳しくお伝えします。  
体験発表後は、参加者（医療者）同士のディスカッションも充実させます。

**発表者** 「小さないのち」会員

**対象** 医療従事者

**日時** 2018年5月27日（日）10:45～13:00 **開場** 10:30

**場所** 関西学院大学梅田キャンパス 1004室（茶屋町アプローズタワー10階）

**定員** 80人（要予約）

**参加費** 小さないのち（子どもを亡くした家族の会）の運営への支援として一口500円の寄付を3口（1500円）以上でお願いいたします。

**申し込み・問い合わせ** [s-ayumi@pop21.odn.ne.jp](mailto:s-ayumi@pop21.odn.ne.jp) 会代表 さかした ひろこ 坂下 裕子

**主催** こども遺族の会「小さないのち」 <http://www.chiisanainochi.org/>